経済地理メモ—社会主義国編

①ポーランド

資　料　室
Publications Office & Library

国　名	ポーランド人民共和国 (Polska Rzeczpospolita Ludowa)
面　積	31.3万 km^2
人　口	3,500万人
首　都	ワルシャワ (Warszawa)

国　土　ポーランドは　ソビエトを除くヨーロッパの社会主義国の中では　面積・人口とも最大である.

経済地理的な位置　ポーランドの位置には　3つの特徴がある.　第1は　東にソビエト　西に東ドイツ南にチェコスロバキアという有好国(発達した社会主義国)の間に位置し　隣国との関係の発展によい条件を備えていること.　第2は　ポーランドの平原を通るのが東西ヨーロッパを結ぶ一番の近道であり　ドナウ河流域の諸国とバルト海を結ぶ一番の近道であること.　第3は第2次大戦後　500 km　以上の海岸線をもつこととなり大きな海運国になったことである.

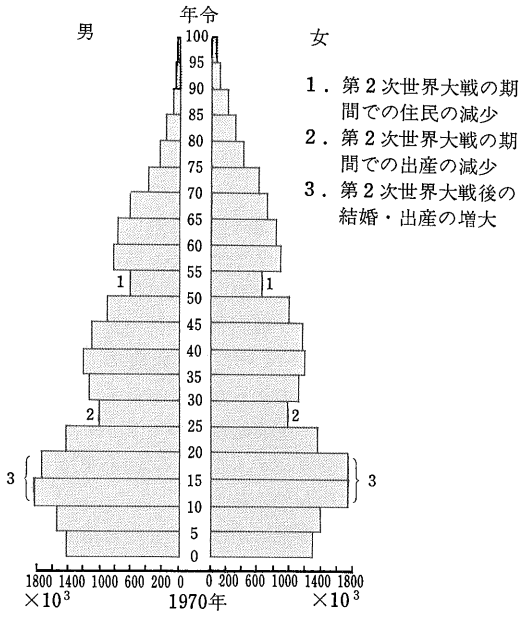
人　口　第2次大戦で　人口は600万人(22%)も少なくなり　女性の割合が急増した.　しかし　こんにちまでに　出生率が高く　外国から多く帰国したこともあって　人口はほぼ1,000万人増加した.　現在　20才以下が全人口の40%を占める.　この比率はヨーロッパのどの国よりも高い.

戦後　回復した失地への移住によって　人口分布は大きく変化した.　とくに南東部諸州の住民が多く移住し外国からの帰国者もほとんどが新領土に定住した.　なお　工業化の進展にともなって　農村から都市への住民移動が続き　工業都市(大都市)の人口増が著しい.

ポーランドの都市には　大都市のほか　数百の小都市がある.　その小都市のほとんどが　外見も機能も　まるで農村である.　その都市開発や工業建設は　現在のポーランドでの重要問題の一つとなっている.

現代ポーランドは　民族構成上もほぼ単一の国家で公用語はポーランド語(東スラブ語系)である.

宗教ではカトリック信者が圧倒的に多く　教会はよく保存され　とくに農村では影響が強い.



第1図　ポーランドの年齢別人口構成(文献より)

経済の全般的特徴　ポーランドは社会主義国になって以来　戦争による膨大な人的・物的破壊からのたち直りが早く　かなり高い経済発展をとげた.　世界総人口の1%にみたない人口で　世界の鉱工業・農業生産の2%を生産している.　とくに石炭は　生産量がソビエト　アメリカ　中国に次ぎ　人口1人当りでは世界一である.

鉱工業所得の占める割合が大きくなった.　とくに大きく変ったのは　機械工業と化学工業である.　またヨーロッパの社会主義国の中でも　ポーランドは鉱業部門の成長がもっともいちじるしい.

鉱　業　ポーランドは鉱物資源に富んでいる.　銅鉱と自然硫黄の埋蔵量は世界でも有数であり　石炭と褐炭　岩塩(ヴェリチカは世界最古の岩塩鉱山)　多金属鉱　建設用鉱物資源はヨーロッパ屈指の埋蔵鉱量をもっている.　しかし　鉄鉱　マンガン鉱　石油　燐鉱は少ない.東ヨーロッパ卓状地　カルパート山脈　中部ヨーロッパ古期山脈の接合部に当る地域の地質に因(ヨ)って　鉱物資源の多くは南部(上シレジア　下シレジア　前カルパート地方)に集中する.　その鉱物資源は燃料資源部門　とくに石

炭産業　そして冶金産業　建設材料生産の発展の基礎となっている．

ポーランドのエネルギー産業の基盤は　石炭と褐炭である．　石炭産出量のほとんど全部が上シレジア(Gorny Slask) 炭田からで　この炭田はヨーロッパの諸炭田の中でもとくに採炭・地質条件がすぐれ　石炭産出量でこれにまさるのはドネツ炭田（ソビエト）だけである．　この炭田から産出する石炭は　エネルギー用炭とコークス用炭である．

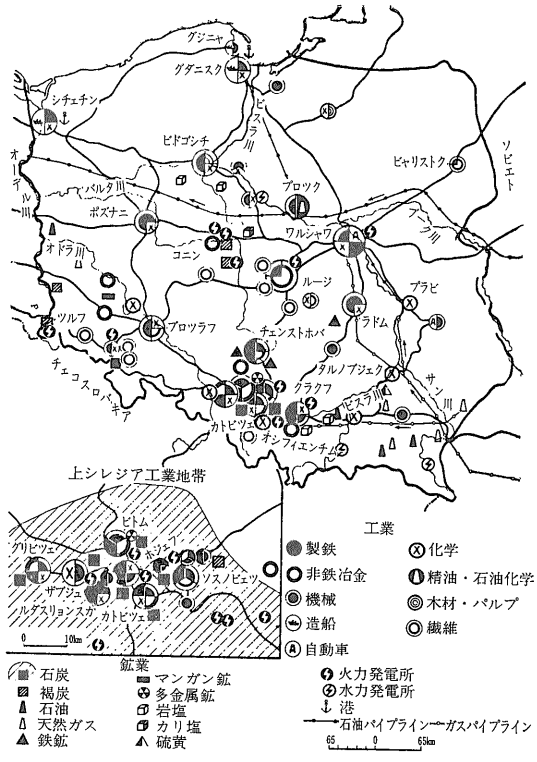
石炭は坑内採掘であるが　褐炭は露天掘で　採掘はほとんど機械化されている．　褐炭は炭田近くに建設された火力発電所（最大の「ツルフ」火力発電所の発電能力200万kw）で使用されている．

石油は生産量が非常に少ないので　石油パイプライン「ドルージュバ（友好)」を通じてソビエトから輸入されている．　天然ガスもソビエトからの輸入がふえている．

鉄鋼の生産は　戦後　ようやく本格的になってきた．石炭と鉄鉱の荷動きの重要な対象例が　戦後に建設されたクラクフ（Kraków）市のレーニン記念製鉄コンビナート（ノバ　フタ Nowa Huta 製鉄コンビナートともいう）である．　その高炉は　上シレジア炭田のコークス用炭とソビエトのクリヴォィログ鉄鉱床群の鉄鉱を用いて稼動している．　このコンビナートは　鋼鉄生産規模（600万t/年）がヨーロッパ最大級のものである．　このほか　上シレジア地方の旧式製鉄所群は同地方の石炭を　チェンストホバ（Czestochowa）市の新式製鉄所は付近の鉄鉱を基礎にして　ワルシャワ市の新式製鋼所は需要増大に対応して　それぞれ操業されている．

非鉄金属の製錬所は　上シレジア地方の多金属鉱　下シレジア（Dolny Slask）地方の銅鉱を基礎にして稼動している．　しかし　アルミニウム製錬の原料資源はすべて輸入で　主にハンガリーから送られてくる．

日本との関係　ポーランドは1945年10月に国連に加盟し　1957年に我が国と国交を結び　大使を交換した．貿易額は1977年の実績（外務省：世界の国一覧表：1979年版）が往復3億7311万ドル（わが国の貿易総額の0.34%）　そのうち日本からの輸出は2億9983万ドル　日本の輸入は



第2図　ポーランド鉱工業分布図（文献より）

7328万ドルである．　日本の主な輸出品目は　合成繊維と同繊維製品　鉄鋼　重化学工業製品　機械類　合成ゴムなど　主な輸入品目は　石炭（とくに強粘結炭）　麦芽　金属加工機械　綿繊維製品などである．

日本との時差は8時間．

文　献

1. 中山昭吉・中山洋子（1971）：東欧圏の露頭ポーランド：古今書院
2. В.П. Максаковский (1979) : Экономическая география Зарубежных стран : «Просвещение», Москва
3. Polska Rzeczpospolita Ludowa (1977) : Rocznik statystyczny: Warszawa

出版案内

「四万十帯の地質学と古生物学」

発行所：林野弘済会高知支部

本書は3部構成となっており　第1部には西南日本外帯の諸問題に関する12論文—例えば物部川流域の中生界の再検討・南四国（外帯）の山地災害とその対応—等を収録．第2・3部には書名の示す通り　模式地である四国の四万十帯に関する14論文をとりあげ　特に化石層序学による時代論の展開によってプレート論を陸地で実証している．　本書は専門書であると同時に　化石図版も多いので教材として　また防災資料としても役立つと思われる．

本書は記念論文集（B5版2段組・約200頁）として12月下旬刊行予定で　現在限定出版予約受付中であるが　10月末締切りのため　詳細は紹介者（〒780　高知市曙町2-5-1　高知大学理学部地質学教室内　電話0888-44-0111　内線649）　宛至急お問いあわせ下さい．